

# 金沢

## かわら版

### 尾張町しんせ通りで

9

ここは加賀藩祖の前田利家の育った荒子城の付近。名古屋市中川区荒子町。尾張町商人の発祥の地でもある。「わしらの先祖の中で、一番頭が良いのやら、体の人一倍丈夫な者はかりが付いて行った。利家さんのところならどこだろうとも喜んで」

### ルーツは荒子

私たちにとってお殿様でも、この地の古者にとっては仲間内の親分といった感じ。職田信長の活躍する戦国時代は、口先よりも本物の信義が優先された。血縁・地縁で結ばれた者同士が力を合わせて事に当たらないと生き残れない時代である。

けれど、地域の英雄を送り出したにもかかわらず、表立っては行き来が出来なかった三百年。徳川御三家の尾張藩の下では、許されるはずもなく、耐えるしかなかった。

さぞや先祖は利家さんと共に、百万石の豪勢らしい金沢を作っていたのだろう。自分たちの夢と希望は、きっと金沢の地で長くなっていたのだと思う。

留守を守る百姓たちの住むこの荒子は、かつて湿地帯であり、ちよっと伊勢湾の水かさが増え

ると、すぐに水がついた所。幼いころより育った利家にとっては、治水難儀(かんが)が大事な仕事に加えられた。

## 利家が育った地 商人連れ加賀へ

何長の下で立身出世をして、荒子衆を家臣として引き連れ、府中(武生)の地では子衆をどうも具合にどんどん家臣を同心円状に増やし、金沢城に入った利家。その最初の仕事は、自分の育った縁談を生かし、曇れ川の陣川を整備すること。浅野川とともに天然日懸を利用した金沢

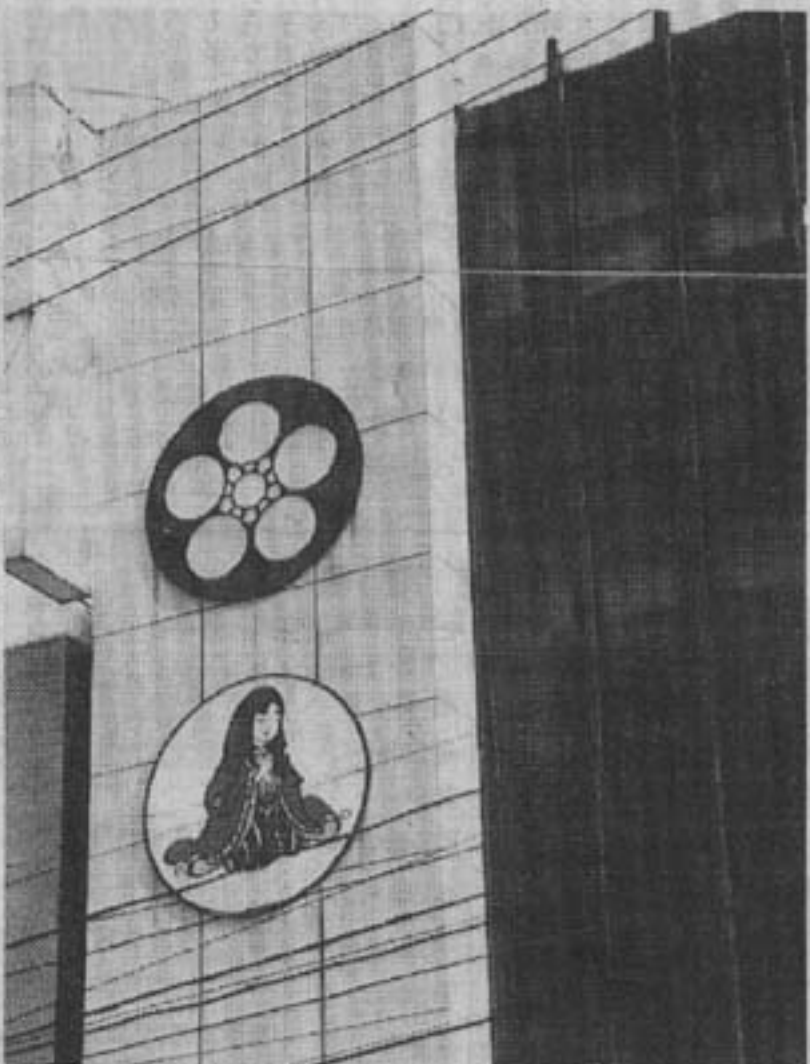
の町造りが始まったわけだ。

この間、荒子衆の二員とともにこの尾張町に住みついた商人たちは、お城のひき元で経済・政治面で重要な役割をもって加賀百万石の繁栄の手伝いをする。

荒子小学校を訪れると、前田家の梅鉢紋が正面に掲げられている。体育館には前田利家初陣の姿が描かれたどんちよらが下がる。毎年、優秀な卒業生に対して「前田賞」というものがある。

「わしらは、これだけしか出来ないけど、金沢では……」時を越えた古者の言葉に、金沢の、尾張町の私たちは奮い立つ。

(石野 瑛一 尾張町若手会)



梅鉢紋

利家尾張時代からの従臣、荒子衆。梅鉢紋は現在の名古屋市立荒子小学校の校章にも残る。